



令和元年度 札幌市民芸術祭

マンドリン 音楽祭

MANDOLIN FESTIVAL 2019

2019

5/26

日

開場13:00 開演13:30



平成30年度 マンドリン音楽祭

札幌市教育文化会館 大ホール

主催：札幌市民芸術祭実行委員会・札幌市・(公財)札幌市芸術文化財団 主管：札幌市民芸術祭実行委員会マンドリン音楽祭部会
協賛：島村楽器(株) 協力：(一社)日本マンドリン連盟北海道支部

第3部出演者

参加団体 (五十音順)

- 小樽商科大学プレクトラム・アンサンブル
- 札幌プレクトラム・アンサンブル
- 札幌マンドリン倶楽部
- 藤女子大学マンドリンクラブ「フジ・フロイライン」
- プレットロ・ノルディコ
- 北海道教育大学札幌校マンドリンクラブOB・OG会
- 北海道大学チルコロ・マンドリニスティコ「アウロラ」
- マンドリン・アンサンブル「アルコパレノ」
- マンドリン・アンサンブル『カシオペア』
- マンドリン・アンサンブル・カルマーレ
- 函館北方マンドリンクラブ(特別出演)

第1マンドリン	パートトップ：橋本 航大、佐藤 芳則 五十嵐美子、今村 倫子、大島 佳織、葛西 恭子、金澤 智美、金子みずえ、北山 勝一、小林由佳理、小原 史也、正田かおり、竹内 郁子、長南ちづ子、寺尾 惇、中尾 博之、西野真知恵、新田 幸子、松島 純一、松田 憲之、南 邦明、矢島 弘美、山敷 知美、山本久美子、渡部 佑菜
第2マンドリン	パートトップ：木野内裕子、昆 知子 朝岡 藍美、阿部 忍、金山 雅子、久津間法子、小林 由子、小原 恵美、斉藤 朱音、塩谷 光高、品田 浩敦、島崎 朋子、鈴木香菜代、関口美奈子、多田 亮介、角田 茂、堂腰 慶子、中田 真澄、西川 英一、西舘 法枝、福田 文子、藤田加津子、南 幸子、南山 衣里、本川 監、山岸理恵子
マンドラ	パートトップ：亀岡菜奈子、今野 恵 五十嵐啓喜、五十嵐要義、石田 伸子、梅辻 弥生、大友 博勝、北山 慎子、熊木 まゆ、住友 裕紀、高崎 裕代、武川 梢、竹山 陽子、千葉 弘幸、野村富士雄、林 優子、南山 友里、三蘆 拓生、向折戸 秀、村形 安奈
マンドロンチェロ	パートトップ：増谷 望、安部 雅則 岩清水礼男、齋藤 裕之、坂 敏弘、佐藤 健一、谷内 尚樹、能代 秀生、堀内 紀花、吉住 彩乃
マンドローネ	パートトップ：堀切 巖
ギター	パートトップ：軽部 涼子、清水上修二 荒川 武志、上田 美海、荻野 怜奈、奥田 沙生、菅 淳子、北尾 結花、斉藤 裕美、榎 美智江、島崎 洋、庄司 寿子、武井 文雄、土谷 和博、中野 彩香、中村 吉昭、松井 多美、矢野 正、吉田 義家
コントラバス	パートトップ：堀 健治 浅野 由紀、三枝 奈央、澤田 葉月、松葉 英明、水野 真一、宮地 知佳
フルート	賛助出演：大島さゆり
クラリネット	賛助出演：山本 郁実
パーカッション	喜多 洋子、賛助出演：大山 雅代、近田亜佐子

令和元年度札幌市民芸術祭「マンドリン音楽祭」部会委員(五十音順) 北山 勝一、小村 淳、渋谷 英雄、西川 英一、松田 憲之

札幌市民芸術祭実行委員会事務局

札幌市中央区北1条西13丁目 札幌市教育文化会館内
ホームページ <https://www.kyobun.org/fes>

音楽の楽しさをトータルに提案する総合楽器店

 **島村楽器**

ピアノ・管楽器・弦楽器や

クラシックギターなどを取り扱うクラシック専門店

札幌クラシック店

住所 / 札幌市中央区北3条西4-1 NOASIS3.4 4F
営業時間 / 平日・祝日 11:00~21:00 土日 10:00~20:00
TEL.011-223-2263

店舗のご案内

■ イベント

クラシックギターフェアやコンサートなど年間を通して各種イベントを開催しております。

■ 音楽教室

アコースティックギター・トランペット・サクソフーン・フルート・クラリネット・ピアノなど幅広いコースを開講しております。

■ 修理・調整

管楽器専任リペアスタッフが常駐していますので修理・調整も迅速に対応いたします。

当店では国内外のクラシックギターを
常時展示・販売いたしております。



特別指揮者：橘 直貴

札幌市出身。桐朋学園大学音楽学部卒業。岡部守弘、紙谷一衛、黒岩英臣の各氏に師事する。卒業後、ウィーン国立音大で湯浅勇治氏の指揮セミナーに参加、師事する。2001年第47回ブザンソン国際指揮者コンクール・ファイナリストならびに聴衆賞受賞。2007年第2回バルトーク国際オペラ指揮者コンクール優勝し、ルーマニア、スロヴァキア、ブルガリアの国立歌劇場に出演。これまでに、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、サンクト・ペテルブルグ・フィルハーモニー、読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京室内管弦楽団、札幌交響楽団、仙台フィル、広島交響楽団、関西フィル他に客演。2009年より東京室内管弦楽団のアドヴァイザー兼プリンシパルコンダクターとして、コンセール・エクラタンの音楽監督として活躍。ヴィオラ・ダ・ガンバを神戸愉樹美氏に師事しており、古典的アプローチにも積極的。

第1部出演者

デュオ“森羅万象”（マンドリン・ギター二重奏）

北海道大学アウロラ出身であるマンドリニストの横山（アウロラ第91代）と、ギタリストの倉田（同第87代）が2014年に結成したデュオ。「音楽表現を超え、演奏を通して人の感傷、世の儂さや未来への希望、その他自然界に存在するあらゆる事物（＝森羅万象）を表現する」という目標のもと命名。吉住和倫氏に師事。

アンサンブル“デル・カーナ”ピッコロ（マンドリン四重奏）

メンバーは、1M／西野真知恵、2M／正田かおり、マンドラ／昆知子、ギター／中村吉昭
道東で隔年開催される道東マンドリンフェスティバルに過去2回出演しています。その都度出演可能なメンバーで構成され、今回は最も少ない4人での演奏となります。

第2部出演者

参加団体 （五十音順）

- 小樽商科大学プレクトラム・アンサンブル
- 札幌月寒高校マンドリン部
- 藤女子大学マンドリンクラブ「フジ・フロイライン」
- 北海道大学チルコロ・マンドリニスティコ「アウロラ」

- 第1マンドリン ー パートトップ：南山 衣里、石原 萌
浅井 美穂、阿部 泰樹、大谷 侃永、小畠 史音、斉藤 朱音、斉藤 優奈、重本さくら、高瀬 春杜、館農 薫平、谷口 実優、玉澤 明優、長濱 萌衣、鳴海 凜、兵藤 壮馬、松家 沙映
- 第2マンドリン ー パートトップ：加藤 優奈、菅野 三愛
相沢 実知、石丸 智菜、太田 未琴、小川実那子、岸 恒介、岸 萌香、齋藤ほのか、佐藤 里帆、杉山 颯吾、多地 愛羅、廣森未侑稀、福田 晴海、松田 萌里、諸越 真鈴、渡部 佑菜
- マンドラ ー パートトップ：南山 友里、住友 裕紀
浅井 杏奈、味戸 大祐、新井 穂佳、伊藤 光希、猪子 咲陽、大平 朱莉、尾谷 風花、熊木 まゆ、銭谷 祐依、田畑 裕衣、中澤 歩海、畠山 紗佳、房川 愛依、森 零
- マンドロンチェロ ー パートトップ：吉住 彩乃、原田 依奈
小西 美咲、齋藤日向子、高村 侑希、中村 杏奈、長沢 理緒、西原 朱里
- ギター ー パートトップ：貝田 貴裕、徳富紗也子
石渡 翔丸、上田 美海、大池 里志、岡田 早紀、奥田 沙生、加藤 真悟、北尾 結花、小坂 郁恵、坂井 日菜、島田 美希、高橋 佳奈、高橋 里佳、田上夏菜子、中田 里奈、中野 彩香、永井 志歩、永野 洋樹、新妻 里菜、西岡 優輝、蛭田 雪姫、宮城 陸、矢橋季美花、山口 菜海
- コントラバス ー パートトップ：宮地 知佳、水野 真一
三枝 奈央、櫻井 璃子、澤田 葉月、中田 凌輔、夏井 智果

プログラム
PROGRAM

〈第1部 重奏の部〉

♪デュオ“森羅万象”(マンドリン・ギター二重奏)

花 ～すべての人の心に花を～ 喜納 昌吉/
吉田 剛士編曲

Libertango (リベルタンゴ) Astor Piazzolla/
Duo森羅万象編曲

♪アンサンブル“デル・カーナ”ピッコロ(四重奏)

Russian Rag (ロシアン・ラグ) George Linus Cobb/
Claudio Mandonico編曲、
Ugo Orlandi改訂

Intermezzo “Goyescase”(歌劇「ゴイエスカス」～間奏曲) Enrique Granados/
九島勝太郎編曲

=10分間休憩=

〈第2部 学生団体合同合奏の部〉

♪指揮：奥田 沙生(小樽商科大学プレクトラム・アンサンブル)

山河緑照 藤掛 廣幸

絵本の旅 本間ユウスケ

♪指揮：小坂 郁恵(北海道大学チルコロ・マンドリニスティコ「アウロラ」)

スペイン組曲 C.マンドニコ

♪指揮：橘 直貴(特別指揮者)

恵まれた結婚 G.マネンテ/中野 二郎編

=10分間休憩=

〈第3部 学生団体・社会人団体合同合奏の部〉

♪指揮：喜多 洋治(プレットロ・ノルディコ)

オーケストラストーリーズ「となりのトトロ」より 久石 譲

1. さんぽ(松田憲之編曲) 2. 風のとおり道(高橋太郎編曲)

3. ネコバス(松田憲之編曲) 4. となりのトトロ(松田憲之編曲)

♪指揮：橘 直貴(特別指揮者)

マンドリン賛歌「フローラ」 A.カペレットティ

交響的前奏曲 U.ボッタキアリ

曲目解説



花～すべての人の心に花を～

作曲：喜納昌吉

「花～すべての人の心に花を～」は、沖縄県出身の音楽家、政治家である喜納昌吉の歌曲。1980年に発表され、その後現在に至るまで国内外の数々のアーティストにカバーされている。

Libertango

作曲：Astor Piazzolla

アストル・ピアソラ (Astor Piazzolla) はアルゼンチンの音楽家である。従来のタンゴにクラシック、ジャズの要素を加えた新たなジャンルを築き、「タンゴの革命児」と呼ばれる。彼の代表作である「Libertango」は1974年に発表された曲で、曲名は「libertad (自由)」と「tango (タンゴ)」を組み合わせた造語に由来する。現在でも演奏形態を問わず様々な場面で演奏される名曲である。

ロシアン・ラグ

作曲：George Linus Cobb

ロシア風ラグタイムを意味しており、アフリカ系アメリカ人由来のラグタイムは、この曲が作られた1918年頃に流行していました。ロシアの作曲家ラフマニノフの「前奏曲嬰ハ短調」冒頭の和音をなぞって重々しく始まりますが、曲はすぐに軽妙に展開していきます。

歌劇「ゴイエスカス」～間奏曲

作曲：Enrique Granados

ピアノ組曲をオペラに仕上げたもので、間奏曲は最後に加筆されました。個性的な和音、陰影のあるメロディー、鮮やかな展開部とスペインらしい印象的な1曲です。1916年、このオペラの初演で渡米したグラナドスは帰途、ドイツの潜水艦に撃沈されて亡くなりました。

交響詩「山河緑照」

作曲：藤掛廣幸

原曲は、1999年に岐阜県で行われた「国民文化祭／邦楽の祭典」にて、琴・尺八・三味線・十七弦による計100名の邦楽合奏のために作曲されました。その原曲をもとに、マンドリンオーケストラの機能を生かすように書き直されたものがこの曲です。この曲のタイトルは、山々の緑が川の水面に美しく照り映えるというイメージから来ています。序奏でのドラマティックな期待感、中間部の澄んだ美しい響き、感情を込めて歌う壮大なテーマ、そして生き生きとした迫力のクライマックスをお楽しみください。

(『作曲家・指揮者・シンセサイザー奏者の音楽工房 藤掛廣幸の音楽』より引用)

絵本の旅

作曲：本間ユウスケ

絵本の物語を一つ一つ紐解けば、自らの手で触れたような感覚になります。表現芸術の中で演奏するという工程の先にある、まるで絵本の世界を旅するような創造の地平において演奏することができればという願いからこの作品は生まれました。

曲は二部に分かれて構成されており、一部では絵本の扉を開くイメージでの序奏部に始まり絵本の世界に一気に展開すると、変奏群が次々に現れ群衆的な高揚を煽ります。二部は対照的に内面的な祈りのイメージに始まり、ゆっくりとしたジャズスイングの中で壮大に展開し、主題中間部によってクライマックスを築きます。
(本人による曲解説より引用)

スペイン組曲

作曲：Claudio Mandonico

クラウディオ・マンドニコは、1957年イタリアのナーヴェに生まれた。ブレスリアの音楽学校でサクソフォーン、ピアノ、フルート、コントラバス、音楽院で作曲を学び、1985年からブレスリア・マンドリンオーケストラで指揮者を勤めるなど国内外で活躍している指揮者、作曲家である。

I: Canta Galo, Vien o Dia

「雄鶏は鳴き、日は昇る」と和訳される一楽章は、マンドリンから始まる主題が少しずつ展開されながら繰り返し演奏される。序盤と終盤の軽快な8分の6拍子 (3-3-2-2-2) が特徴的で、リズムカルな可愛らしさも感じられる。

II: Habanera

ハバネラとはキューバ起源のゆったりとした二拍子の舞曲で、付点8分音符と16分音符の軽く跳ねるリズム感を持ち、タンゴのもとになっていると言われている。全体的に緩やかだが、3連符の上昇音形や掛け合いで推進力が生まれている。

III: Pelota

ペロータとは、素手やラケットでボールを壁に打ち合うバスク地方発祥のスポーツである。スペインらしく激しく情熱的な掛け合いが多い中に現れる、流れるような美しいメロディーや少し突然にも思える場面転換が印象的で広がりを持たせている。再現部からどんどん高まりを見せ、激しく快活に曲を締めくくります。
(小坂郁恵)

恵まれた結婚

作曲：G.マネンテ

1930年、当時のイタリア皇太子であったピエモンテ公の絢爛豪華な結婚式にあたり、軍楽隊長であったマネンテが献曲した吹奏楽作品408番の祝典行進曲。かの有名なメンデルスゾーン『結婚行進曲』のモチーフを用いたことによる煌びやかな旋律が特徴的である。

本日演奏するのは故中野二郎氏によりマンドリン合奏へ編曲されたものであり、マンドリンの煌々とした音色によりその旋律は美しく表現される。中間部のマンドラとマンドロンチェロのユニゾンによる豊かな旋律も本曲の聴き所である。行進曲はマネンテが得意とするジャンルであり、1898年に作曲された「凱行進曲」からは本曲の動機との関連性も感じられる。

オーケストラストーリーズ「となりのトトロ」より

作曲：久石 譲

本日演奏する『となりのトトロ』は、ナレーション入りの組曲「オーケストラストーリーズ『となりのトトロ』」全8曲をマンドリンオーケストラ用に編曲し、そこから抜粋した4曲です。

作曲者の久石譲さんは、こどもはもちろん大人も楽しめるトトロのコンサートを開くにはどうしたら良いかと考えていたところ、ブリテンの『青少年のための管弦楽入門』とかプロコイエフの『ピーターと狼』などのナレーション入りの作品が頭に浮かび、このオーケストラストーリーズを生み出しました。

1曲目：「さんぽ」

原曲では、各楽器の紹介も兼ねてこの音楽物語の導入を果たす曲になっています。誰もが知っているこの曲を聴いた瞬間トトロの世界に引き込まれることと思います。

2曲目：「風のとおり道」

トトロが住む大きなクスノ木のあるのどかな村に、さわやかな風が梢をゆらしながら通り過ぎていく様子を描いています。

3曲目：「ネコバス」

妹のメイは、入院しているお母さんに会いたくて大人の足でも3時間かかる病院へ行く途中迷子になりました。メイを探す姉のサツキはトトロに会いに行き「メイを探して!」と必死に頼みました。トトロが一声「とーとーろー!」と吠えるところからネコバスが現れ、サツキとメイを乗せてお母さんが入院している病院を目指し、空に向かって走り出しました。

4曲目：「となりのトトロ」

ネコバスで病院に着いたサツキとメイは近くの大木の枝に座り、病室で談笑しているお父さんとお母さんを見て微笑みあいます。2人は病室の窓辺に1本のトウモロコシを置いて帰っていききました。

マンドリン賛歌「フローラ」

編曲：A.カペレッティ

作者は1877年1月6日、イタリアのコモに生まれ、1946年10月16日、同地で没した作曲家、指揮者、オルガニスト。作品には、ミサ曲をはじめとする宗教音楽、ヴァイオリンとピアノのためのソナタ、オルガンのためのソナタ、管弦楽曲、声楽曲などがある。1911年パリで彼のオルガン曲が入賞するなど、各地の作曲コンクールに度々入賞した。

マンドリン関係では、イル・プレットロ誌1906年7月に「恋人たちの踊り」、1907年11月には「マンドリン賛歌フローラ」、1909年には「悲歌」など6曲を発表している。1913年のイル・プレットロ誌第4回作曲コンクールに「劇的序曲」がファルボの「ニ短調序曲」、ラウダスの「ギリシャ狂詩曲」とともに第一位入賞した。

「マンドリン賛歌フローラ」はコモ市のマンドリン合奏団フローラの指揮者であった作者が自らの合奏団のために作曲したものと考えられる。岡村光玉氏はイタリア留学中に作者の遺族を訪ね、彼のピアノやオルガンのための作品自筆譜（複写）を贈られたが、その中に、作品番号107「Inno-Marcia」（ピアノ曲）がある。本曲と同じ作品で、楽譜の末尾に「1906年3月9日」とあり、ピアノで作曲しマンドリン合奏団に移したものと考えられる。なお、ボッタッキアリが作者の後任としてマンドリン合奏団フローラの指揮者となっている。スコアはマンドリン誌「イル・プレットロ」1907年11月号印刷原譜、パート譜は同誌1927年5月号によった。
(オザキ譜庫頒布楽譜曲目解説より)

交響的前奏曲

作曲：U.ボッタッキアリ

1879年3月10日、マチェラータ (Macerata) のカステルライモンド (Castelraimondo) に生まれ、1944年3月17日コモ (Como) に逝いた作曲家。労働者の家に生まれマチェラータの工業学校に通っていたが、はやくから音楽に対する情熱を燃やしていた。この頃ポーニアのマンドリン誌イル・コンチェルトに彼の作品『Nubid'Amore』(1897年5月号)、『Nevicata』(1898年(2月号)、マーチ『Castelraimondo』(1898年6月号)が出版されているがその時はまだ18歳に満たなかった。彼は音楽に対する宿望たちがたく、故郷を離れペサロ (Pesaro) に移りピエトロ・マスカーニの指導下にあるロッシーニ音楽院に入り、組織的な厳格な音楽教育を受けることとなった。1899年、若い学生であった彼は1幕のオペラ『L'OMBRA (影)』を書き、11月12日マチェラータのLauroRossi劇場で初演され大成功をおさめた。

(中略)

マンドリン音楽に関する作品については、前述のボッタッキアリ18才頃の作品をはじめイル・コンチェルト誌から40曲近い作品が発表されている。マンドリン曲の代表作としては、『Il Voto (誓い)』(1910年、ミラノのイル・プレットロ (IlPlettro) 誌主催の第3回作曲コンクールにおいてS.ファルボの『組曲田園写景』、L.メラナ・フォクトの『過去への尊敬』等と共に1等賞を獲得した)、『交響的前奏曲 (Preludio Sinfonico)』(1915年に出版)、『Incantesimodi un Sogno (夢の魅惑)』(1941年、シエナに於いて行なわれたマンドリン・オーケストラの為のオリジナル作品の第2回作曲コンクールに1等賞を得た) 等がある。

『交響的前奏曲』は1914年の作品で、1915年この曲の出版後、我が国にもいち早くもたらされ今日まで愛奏されている。第一主題と第二主題それぞれに展開部をもち、各パートを複数に分割し重厚な和音と巧妙な対位法により骨組みのしっかりした規模壮大な作品となっている。

(オザキ譜庫頒布楽譜曲目解説より)

